

教材



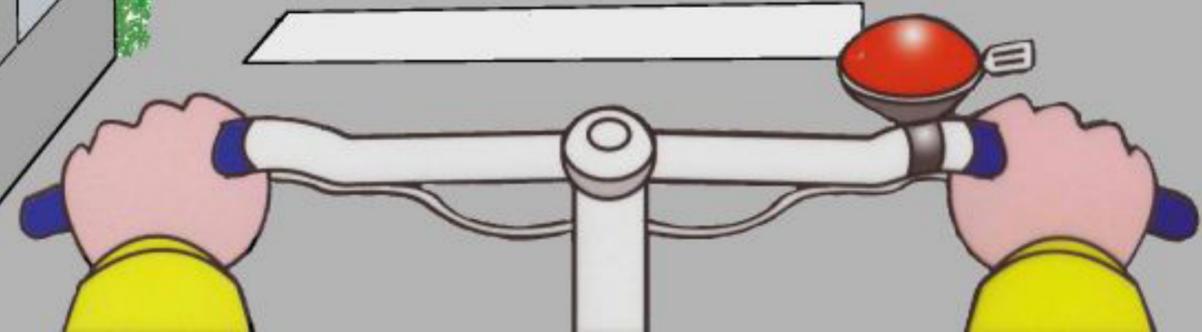
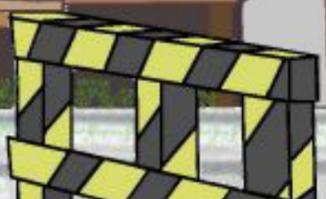
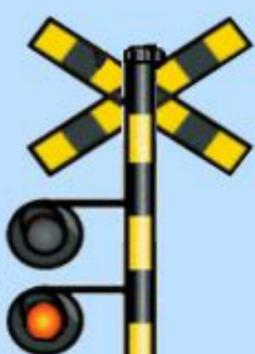
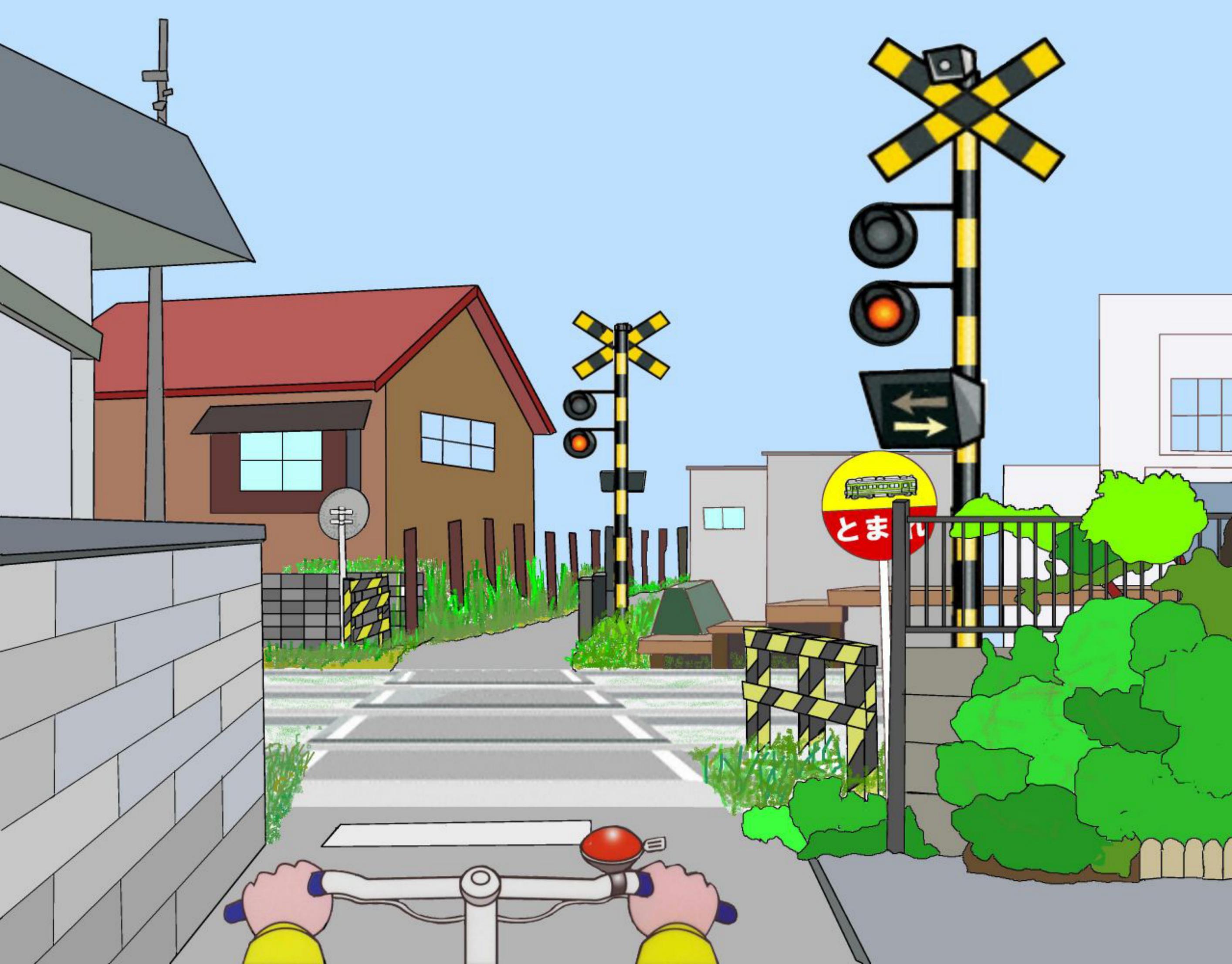
危険予測学習の進め方（例）－信号機のある交差点の危険－

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (交差点の状況、歩道歩行者の状況、自転車の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 交差点の横断歩道を渡ろうとしている。 右側に左折・右折の車がいる。また、歩行者もいる。 急いでおり、歩行者用の信号が青なので、スピードが出たまま、横断歩道を渡ろうとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・手を挙げるなど、こちらが運転者によく見られるようにしても、運転者は、他の車両の動きに気をとられていたり、急いでいるため、十分な確認をせず、自転車を見落としてしまうことがあることを予測させたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例:「歩道では徐行。必要あれば一旦停止」「右左折の車をしっかり観察」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 信号機のある交差点でも多くの事故が起きる。横断歩道の信号が青であっても、左折や右折してくる車両があり、横断する歩行者や自転車は、必ずしも安全とは限らないので、十分注意する。</p> <p>② 左折車の運転者は、交差点内の右折待ちの車両や他のことに気を取られて、横断歩道の通行者を見落とす危険がある。 このため、運転者が気付くよう手で合図したり、アイコンタクト（目と目で見合うこと）したりし、自分の存在を運転者に知らせ、安全を確認して横断する。</p> <p>③ 右折車両の運転者は、左折車両の陰にいる横断歩道の通行者に気付かないまま、左折車両の後に続いて走行する傾向がある。 このため、左折車両だけでなく、右折車両の動きにも注意して、安全確認を徹底する。</p> <p>④ 横断歩道では、自転車は、他の歩行者の迷惑にならないようにする。(教則第3章第2節1(5)参照) (注: 教則=交通の方法に関する教則(以下同じ。))</p>
-------------------	--



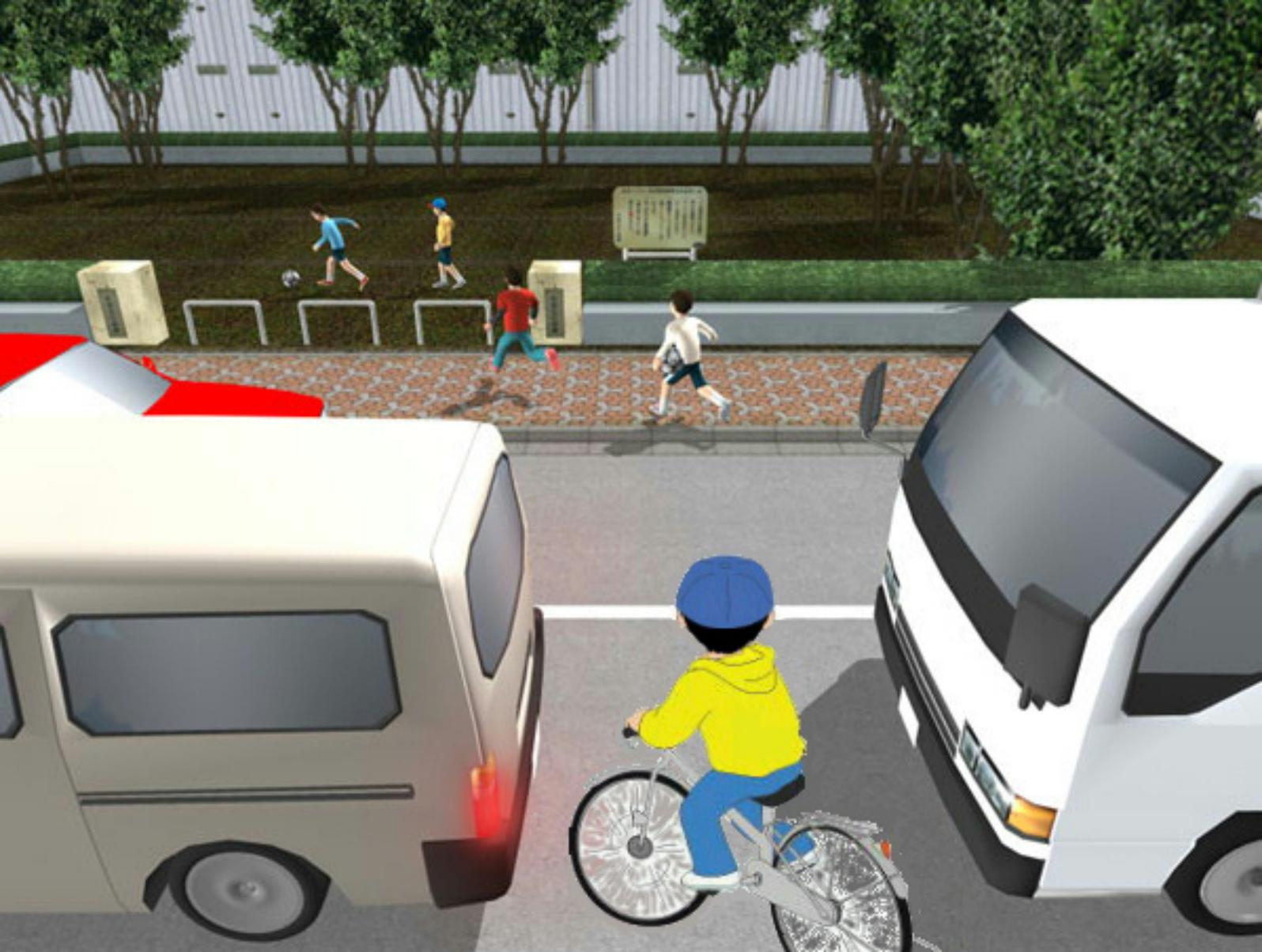
危険予測学習の進め方（例） — 踏切横断の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (踏切の状況、警報機の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 遮断機がない踏切にさしかかった。 警報機は鳴っているが、周囲に車両はなく、電車の音も聞こえてこない。(電車の音は、近くに来るまでほとんど聞こえない。)
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・遮断機がない踏切での運転者の心理や、見通しが悪いため、電車の姿を確認せずに音だけで判断することの危険性を考えさせたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大(大変)だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「停止線では必ず止まり左右を確認する」「目と耳で確認する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 踏切では、警報機が鳴っていなくても一時停止をして左右の安全確認をする必要がある。(教則第3章第2節2(6)参照) 特に塀などで左右が見にくいところでは、見やすいぎりぎりの位置まで出てしっかり確認する。</p> <p>② ヘッドフォンステレオを聞きながらの運転や、携帯電話を操作しながらの運転、または傘をさしながらの運転は、警報機の音を聞き逃したり、警報機を見逃したりして危険なので絶対にしない。(教則第3章第2節2(11)参照)</p> <p>③ 電車が近づいてくる音は、近くに来るまでほとんど聞こえないため、音だけで判断するのではなく、一時停止の上、必ず目視で確認する。</p> <p>④ 遮断機がある踏切では、警報機が鳴りはじめて遮断機が下りるまでに数秒かかることもあるが、警報機が鳴りはじめたら渡らないようにする。</p> <p>⑤ 道幅が狭い踏切で、対向車が来ている場合は、無理に渡ろうとせず対向車を通してから渡るようにする。</p>
-------------------	---



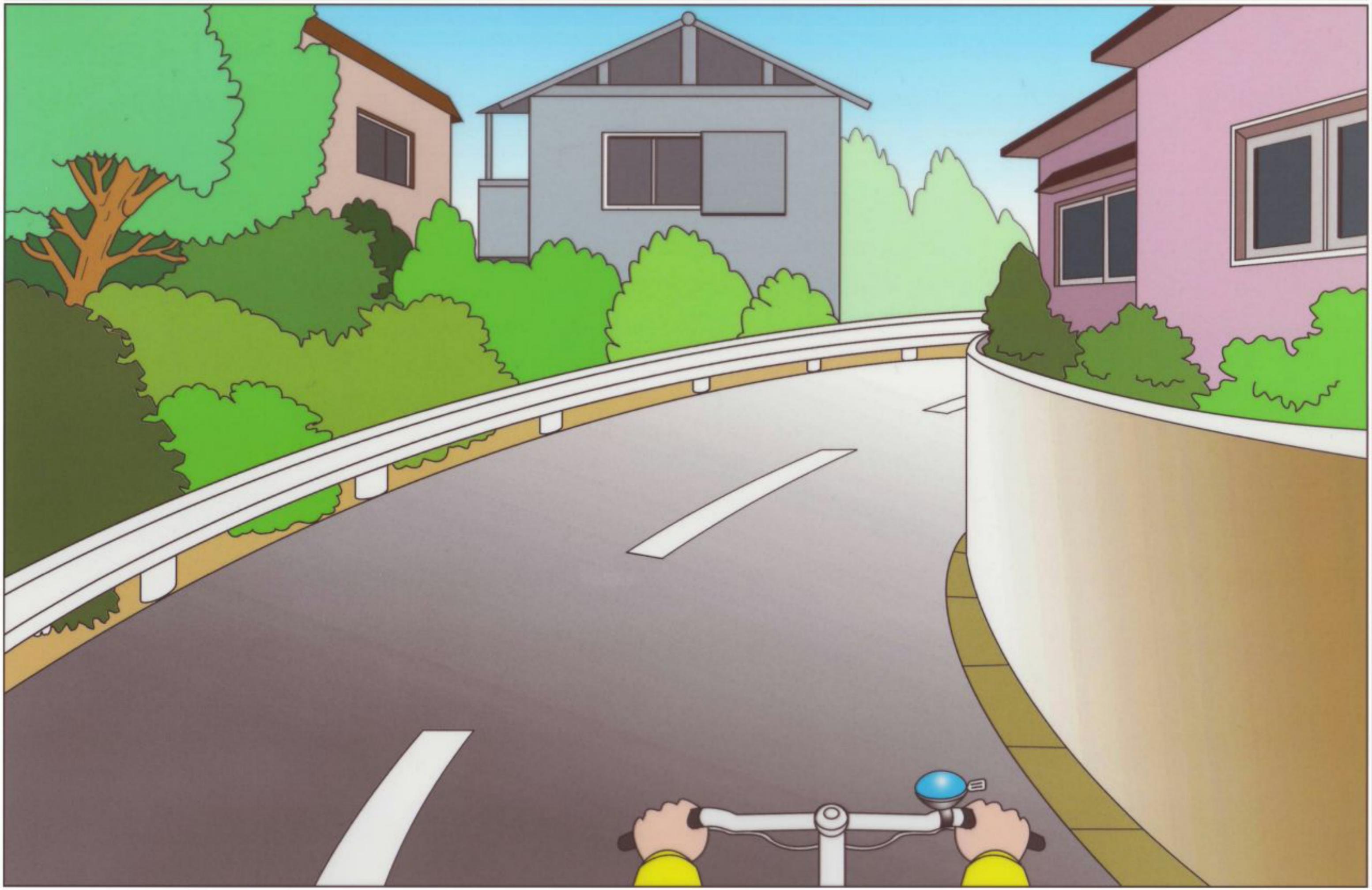
危険予測学習の進め方（例） — 停車中の車両間の横断の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (道路の状況、自転車の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 道路は渋滞し、車が停止している状態である。 友達が道路の向こう側にいるのを見つけ、一緒に遊ぼうと、停車している車両の間をすり抜け、道路を横断しようとしている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・道路は、手前の車線だけでなく、反対車線もあり、車はすれ違っていることを十分に認識させ、そこで起こりうる危険をしっかり考えさせたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大（大変）だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「横断歩道を使って横断する」「見通しの良い所で安全確認する」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① 道路を横断する場合は、左右から走行してくる車両があるかどうかをしっかりと確かめることが必要である。停車中の車両の横を二輪車が高速で近づいてきたり、渋滞していない向こう側の車線を他の車両が走行してきたりすることにも注意をする。(教則第3章第2節2(3)参照)</p> <p>② 人が先に横断してしまっても、すぐにその後を追いかけないで、停車車両のない見通しの良い場所に移動してから、安全を確かめて横断する。</p> <p>③ 早く向こう側に渡る必要があっても、その急ぐ気持ちに気を取られて、左右の安全確認を怠りがちなので、どのような場合でも車道に入る手前で停車し、落ち着いて安全を確認して横断する。</p> <p>④ 走行してくる車両の運転手が周囲の景色などに気を取られ、横断者を見落とししたり、発見が遅れたりすることがあるので、車両との十分な距離、または車両が来ないことを確かめて横断する。</p>
------------	--



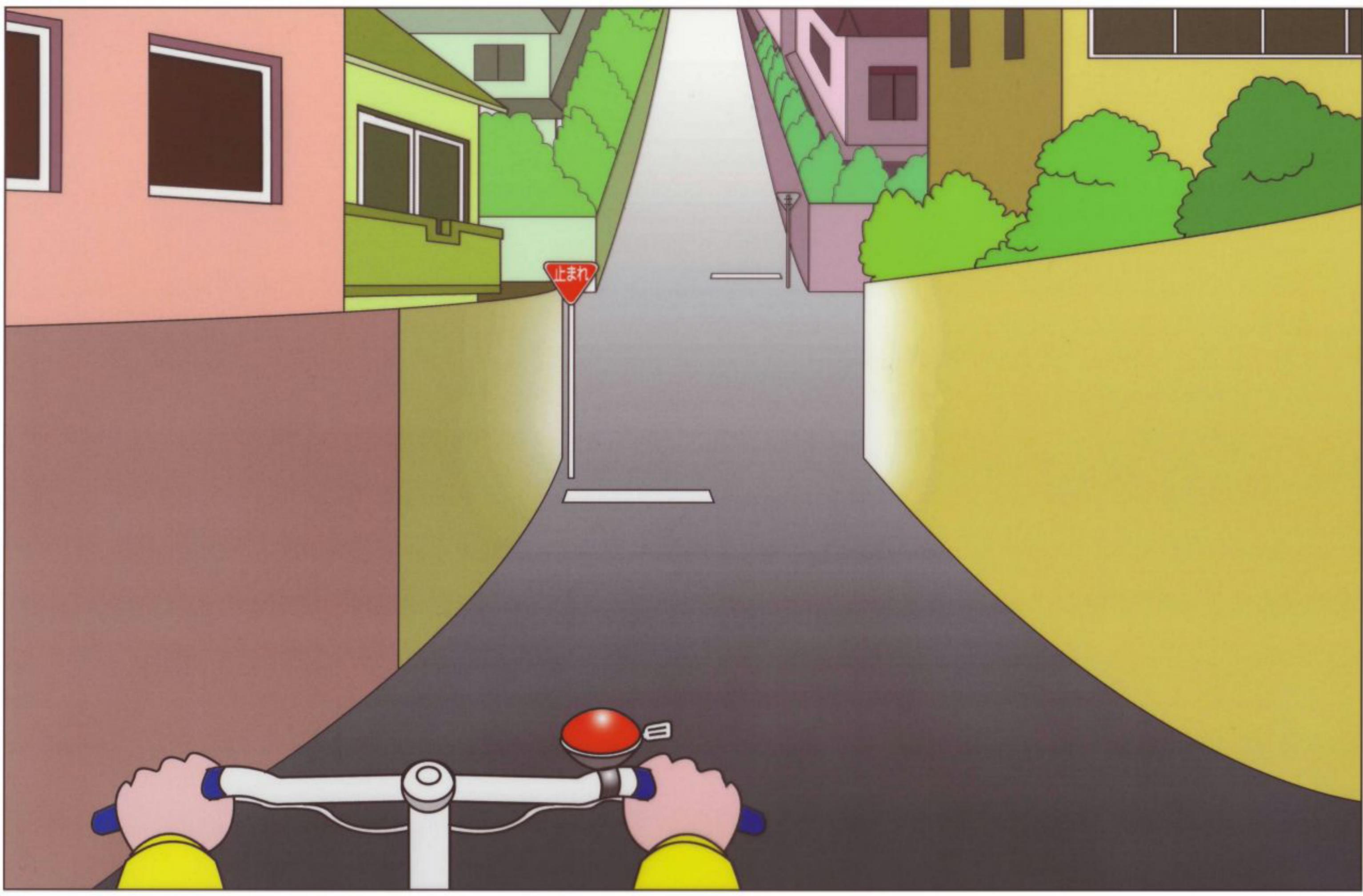
危険予測学習の進め方（例） — 右側通行の危険 —

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・発表させる。 (歩道の状況、自転車の状況、周囲の車両の状況など) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 右にカーブしている道路がある。 本人は、右側通行している。 しかし、道路の端にはブロック塀があり、大変、見通しが悪くなっている。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このまま進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る事故やありそうな危険をできるだけ多く予測させ、板書する。その理由も述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・対向車両は、前方から自転車が来ているということを全く予想していないことや、この車線の前方から、正しいルールに則り通行する自転車や歩行者がいることも予測させたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、重大（大変）だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、ふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気を付けることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「ルールを守り左側通行」「見えない場所には、人や車がいる」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 前からやってくる自動車は当然道路の左側（自転車から見れば道路の右側）を走ってくる。左カーブでは、左側から来る自転車をぎりぎりまで発見することができない。 自転車は、ルールに従って左側通行することにより、対向車からも早く発見され、安全が確保される。</p> <p>② 対向車両は、前方から自転車が来ているということを全く予想していない。また、発見できたとしても、カーブでは自転車はブロック塀から突然現れたように見え、正面衝突する事故となる場合が多い。 自転車は車両の一つであるとの認識をもち、左側通行を厳守する。（教則第3章第2節1(2)参照）</p> <p>③ 前方から、正しいルールに則り通行する自転車や歩行者が突然現れることも十分予測される。見えないところには、必ず人や車両などが来ているかもしれないという意識をもつ。</p>
-------------------	--



危険予測学習の進め方（例）－ 一時停止線無視の危険（坂道走行の危険）－

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・言葉で表現し、発表させる。 (道路状況、子どもの状況、自転車の状況等) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 自転車で坂道を下っていたとき、だんだんとスピードがついてきたので、交差点前でブレーキをかけた。 ところが、スピードが出すぎていたため、ハンドルがとられてガタガタとゆれ、こわくなってきた。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このままAさんが進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る危険・事故をできるだけ多く発見・予測させ、その理由を述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・車の運転者の立場に立った危険も予測させたい。 ・ブレーキの利きがよくない場面の想定については是非取り上げたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、大変だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、最もふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気をつけることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「自転車のブレーキを点検する」「坂道ではスピードを出さない」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

<p>安全上の望ましい行動</p>	<p>① 日頃から、自転車のブレーキ等の安全点検をしておくことが、極めて大切である。坂道でのブレーキワイヤーの切断などのトラブルは、非常に危険である。 不備が見つかったらすぐに修理する。また、定期的に点検する。(教則第3章第1節2参照)</p> <p>② 坂道では加速度的にスピードが出る。 スピードを抑え、緊急の事態に備える走行を常に心掛けることが大切である。(教則第3章第2節2(1)参照)</p> <p>③ 一時停止の標識・表示があるところでは、必ず一時停止し、左右の安全を確認してから、交差点に入る。(教則第3章第2節3(2)参照)</p> <p>④ 坂道でのブレーキの掛け方にも注意する。(教則第3章第2節2(1)参照) 前輪ブレーキを先にかけたり、急激にブレーキ操作をしたりすると、体が前方に投げ出される危険がある。日頃から、後輪ブレーキでスピードを制御し、必要な場合は前輪ブレーキをかけるなど、ブレーキ操作の仕方の基本を練習しておく。</p>
-------------------	--